

1. 授業の概要(ねらい)

この授業では、中等社会系教科(社会科・公民科)の指導の理論と方法について実践的に学ぶことを通して、当該教科を担当する教職としての専門的力量を身に付けていく。とりわけ、次の2点を主眼とする。

- (1) 社会科・公民科の目標及び内容: 学習指導要領に示された当該教科の目標や内容を理解する。
- (2) 社会科・公民科の指導方法と授業設計: 基礎的な学習指導理論を理解し、具体的な授業場面を想定した授業設計を行う方法を身に付ける。

※本授業は、教育職員免許法施行規則に定める教職に関する科目(「教育課程及び各教科の指導法に関する科目」)である。中学社会、高校公民の免許取得を希望する者にとっては必修である。

2. 授業の到達目標

(1) 社会科・公民科の目標及び内容

① 学習指導要領における社会科・公民科の目標及び主な内容並びに全体構造を理解している。

② 個別の学習内容について指導上の留意点を理解している。

③ 社会科・公民科の学習評価の考え方を理解している。

④ 社会科・公民科の背景となる学問領域との関係を理解し、教材研究に活用することができる。

⑤ 発展的な学習内容について探究し、学習指導への位置付けを考察することができる。

(2) 社会科・公民科の指導方法と授業設計

① 子どもの認識・思考、学力等の実態を視野に入れた授業設計の重要性を理解している。

② 社会科・公民科の特性に応じた情報ツール(ICT)及び教材の効果的な活用法を理解し、授業設計に活用することができる。

③ 学習指導案の構成を理解し、具体的な授業を想定した授業設計と学習指導案を作成することができる。

④ 模擬授業の実施とその振り返りを通して、授業改善の視点を身に付けている。

⑤ 当該教科における実践研究の動向を知り、授業設計の向上に取り組むことができる。

3. 成績評価の方法および基準

学習指導案(課題レポート)の提出(35%)、および授業参加度: 授業中の発言、グループワーク等への参加状況等(25%)、その他、授業内容に関わるリアクション・ペーパーの提出状況(40%)に基づいて、総合的に判断する。

4. 教科書・参考文献

教科書

文部科学省 『中学校学習指導要領解説 社会編』 東洋館出版

文部科学省 『高等学校学習指導要領解説 公民編』 東京書籍

『新しい社会 公民』中学校社会科教科書(公民的分野) 東京書籍

『詳述 公共』高等学校公民科教科書(公共) 実教出版

(※詳細は、初回授業時に指示する。)

5. 準備学修の内容

(1) 指導案作成など、授業外学修の割合が高い。受講前の段階から社会科・公民科に関する知識・情報収集(=教材研究)を行い、また、説明方法(資料や視聴覚メディアの活用方法)に関する学習を自主的に進めておくこと。

(2) 課題の提出には、参考文献を読むことが欠かせない。図書館で参考文献や教育雑誌(論文記事)を頻繁に探すことをつけること。

6. その他履修上の注意事項

(1) 受講者について、30人を基準として、場合によっては抽選を行う。なお、学部必修授業の関係で、履修の時限が限られている場合、担当教員に相談すること。

(2) 理由なく欠席した学生は、本授業を受ける資格を失うので注意すること(諸事情で出席できない場合は、前もって教員に連絡すること。研究室: 10号館1階研113、メールアドレスなどは大学公式ウェブサイトの教員紹介ページを確認)。

(3) 教科に関する知識(内容)なくして、指導法(方法)はありえない。学力がないのに、指導技術だけがうまくなる「万能薬」は存在しない。各自で知識の剥落を補う「学び直し」を同時に行いながら、授業に参加すること。

7. 授業内容

- 【第1回】 イントロダクション―「学びの専門家」としての教職に向けて―
- 【第2回】 「問い」をつくる実践―教材化に向けた「追究」の意義を理解する―
- 【第3回】 社会系教科における「実践的指導力」の検討―論文をよむ―
- 【第4回】 学習指導要領をよむ―教育課程上における社会科・公民科の位置づけ―
- 【第5回】 教材研究・授業づくりの方法を学ぶ(1)―中学社会・歴史―
- 【第6回】 教材研究・授業づくりの方法を学ぶ(2)―中学社会・地理―
- 【第7回】 教材研究・授業づくりの実践に学ぶ(1)―憲法学習を例に―
- 【第8回】 教材研究・授業づくりの実践に学ぶ(2)―政治分野の学習を例に―
- 【第9回】 教材研究・授業づくりの実践に学ぶ(3)―経済・金融分野の学習を例に―
- 【第10回】 シナリオ型学習指導案の作成・成果発表―実際に授業をしてみよう―
- 【第11回】 学習指導案の作成に向けて(LMS)
- 【第12回】 現代的課題を対象とした実践例から学ぶ(1)―南北問題―
- 【第13回】 現代的課題を対象とした実践例から学ぶ(2)―コンビニからみる労働―
- 【第14回】 学習評価の枠組みを考える―評価基準と評価基準／パフォーマンス評価とは―
- 【第15回】 まとめと評価―課題レポート(学習指導案)の提出と相互批評―
(※受講者の人数に応じて作業体験的学習を導入するなど、変更を行う。)